

2022年11月25日

日本銀行大阪支店

関西金融経済動向

【全体感】

関西の景気は、感染症の影響が和らぐもとで、持ち直している。

輸出は、基調としては緩やかな増加を続けているものの、一部に弱めの動きがみられている。設備投資は、増加している。個人消費は、感染症の影響が和らぐもとで、総じてみれば緩やかに増加している。公共投資は、高水準で推移している。住宅投資は、横ばい圏内で推移している。こうした中で、生産は、基調としては緩やかな増加を続けているものの、一部に弱めの動きがみられている。雇用・所得環境をみると、全体として緩やかに改善している。

先行きについては、海外の金融・財政政策の動向、ウクライナ情勢、原材料価格や消費者物価の上昇、新型コロナウイルス感染症や供給制約等が、当地の経済金融情勢に与える影響などを注視していく必要がある。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、高水準で推移している。

輸出は、基調としては緩やかな増加を続けているものの、一部に弱めの動きがみられている。

設備投資は、増加している。

個人消費は、感染症の影響が和らぐもとで、総じてみれば緩やかに増加している。

百貨店販売額、外食売上高は、緩やかに増加している。スーパー等販売額、旅行取扱額は、持ち直している。乗用車販売は、供給制約の影響が和らぐもとで、持ち直しの動きが続いている。家電販売額は、弱い動きがみられている。

住宅投資は、横ばい圏内で推移している。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、基調としては緩やかな増加を続けているものの、一部に弱めの動きがみられている。

内訳をみると、電子部品・デバイスなど一部に弱めの動きがみられている。

3. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、全体として緩やかに改善している。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、3%台半ばのプラスとなっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて低水準で推移しているが、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が一部にみられている。

6. 金融情勢

預金残高は、個人預金の増加を背景に、前年比1%台後半のプラスとなっている。

貸出残高は、既往の企業向けの資金繰り支援融資のほか、住宅ローンや設備資金需要等を背景に、前年を上回っている。

預金金利は、低水準で推移している。

貸出金利は、低下している。

以 上